



期間 令和7年 10月25日(土)～11月22日(土) [全5回]

実施場所 生涯学習総合センター

〒803-0811 小倉北区大門1-6-43 (27ページアクセス参照)

申込・問合せ先 生涯学習総合センター

〒803-0811 小倉北区大門1-6-43
TEL: 571-2735 FAX: 571-0943

時間 10:00～12:00

応募締切

10月3日(金)

スマートフォンからも
お申込みできます▶



定員 30名

受講料 3,000円

受講生への
メッセージ

コーディネーター：科学技術コミュニケーション研究所 代表 泉 優佳理

「環境」というと何を思い浮かべられますか。「環境」は私たちの暮らしのすべてに関わるため、日頃はあまり意識されない視点もいろいろとあります。たとえば、私たちが分別して出したごみはその後どうなるのでしょうか。また、公園等の子ども達が過ごす場所についての環境や、気候変動によってますます重要になる豪雨災害への対策については、日常の中で意識されることは少ないかもしれません。社会を守るための知的財産の尊重も環境分野でとても大切です。北九州の公害の克服も、これまであまり語られてこなかった視点から考えることで、過去の教訓がより未来に活かされると思います。何か一つでも新しい気づきをお届けできたら幸いです。

泉 優佳理

科学や技術、環境などを、楽しく身近に感じてもらえま
すよう、わかりやすく伝えることをめざしています。

回数	月 日	テーマ・内容	担当講師
1	10/25 (土)	“ごみ”の歴史と課題 人類とは、“ごみ”を排出する生物です。人類の誕生から人口の推移、中世(江戸時代)の“ごみ”事情から昨今の“ごみ”の話題と課題についてお話しします。	北九州市立大学 名誉教授 九州環境技術創造道場 道場長 伊藤 洋
2	11/1 (土)	気候変動下での豪雨災害対策のこれから 近年、想定を超えた豪雨災害が頻発しています。気候変動下における降雨の変化は、豪雨災害時の現象や対策を変化させています。ここでは、九州地方における近年の豪雨災害、災害から得られた教訓、気候変動下における豪雨災害対策のこれからについて説明します。	九州工業大学大学院 工学研究院 教授 重枝 未玲 専門分野は、数値流体力学。豪雨により発生する現象をコンピュータで再現・予測するモデルの開発や豪雨災害対策の検討を実施。
3	11/8 (土)	子どもと自然から考える 環境保全とマネジメント 子どもたちとの協働による自然再生プロジェクトや、ノルウェーの自然と人との関わりについてご紹介します。子どもと遊びの観点から、自然環境についてみなさまと一緒に考えていきたいと思います。	九州工業大学大学院 助教 須藤 朋美
4	11/15 (土)	知的財産と環境 技術やビジネスを守る権利として、特許以外の知的財産も環境に関係します。今回は、いろいろな種類の知的財産(特許をはじめ、植物の新品種を守る育成者権など)のお話です。	北九州市立大学 特任教授 石橋 一郎 安川電機出身。複数の他大学でも知的財産について講義中。
5	11/22 (土)	青空がほしい運動 ～もう一つの視点から学ぶ公害克服物語(座談会)～ 北九州市が高度成長期に深刻な公害問題に直面し、立ち上がった市民運動とは?その時、企業技術者は、行政職員は、それぞれの視点を交えて歴史を振り返ります。	【司会進行】 東戸畑市民センター 館長 渡辺 いづみ 【パネラー】 元北九州市環境ミュージアム 館長 中藺 哲 環境省 登録環境カウンセラー 森本 美鈴 科学技術コミュニケーション研究所 代表 泉 優佳理